

# 2018年度 ワシントン大学語学研修 報告レポート集

研修日程： 2018年8月6日（月）～8月24日（金）  
2018年8月27日（月）～9月14日（金）

研修先： **University of Washington**



兵庫県立大学 国際交流機構

## ワシントン大学語学研修に参加して

経済学部 3 年  
女子学生

この夏、アメリカのワシントン大学で短期語学研修に参加しました。英語の勉強はその言語が話されている地で、と決めての決断です。そしてこの決断で、いい思い出ができました。私にとって語学は、書くより話す、読むより聞くということです。

最初はいろいろな手配をして、まだ順調に進みました。でも、初めてひとりで行く外国ですので、緊張も日々に増やしてきました。ドキドキした気持ちでワシントン大学に着きました。そこはとても大きく、きれいな大学でした。日本と違って、建物の風格、大学全体の雰囲気爽快でした。運動している人をどこでも見かけました。

寮に宿泊すると決めたのは、先輩のお勧めです。とても広く、学校からはわずか5分で着ける場所で、たくさんの学生が宿泊していました。各国の学生が一つの屋根に暮らし、コミュニケーションには非常に有利で、各地の友達ことができました。

授業は午前だけで、午後は観光地の見学でした。午前の授業はとても楽しかったです。私のクラスは実践を重視し、読み書きの練習は少なく、会話が中心でした。先生はかわい方で、私たちを海に連れて行ってくれ、おいしい手料理も作ってくれました。観光地訪問は自由参加で、興味のあるところだけ行くことができ、とにかく自由なアメリカ！という印象を受けました。

クラスは、日本人が三分の二でした。中国人はわずか3人、台湾からは2人、そして、まさかのロシア人の美女が1人。みんないい人たちで、優しく接してもらいました。今、日本に戻っても連絡を取り合っています。

世界を知る前に世界を見る、というのが私の考えです。世界に向かっての今の一步は未来の土台になれる。将来を変えるきっかけになるかも！ですので、このワシントン大学語学研修はとてもおすすめです！

## ワシントン大学語学研修に参加して

看護学部 1 年  
女子学生

私がこの大学研修に参加しようと思ったきっかけは、長い夏休みを利用して今まで挑戦したことがなかったことに挑戦してみたいと思ったからです。初めてのことで沢山の不安はありましたが、大学の先生方が心強いサポートをしてくださったので順調に準備をすることができました。しかし、研修当日、夜遅くに空港に到着し、空港でホストマザーと待ち合わせのはずが、飛行機が遅れたためかホストマザーと待ち合わせ場所で会えずとても不安になりました。

異国の慣れない地で不安なスタートを切りましたが、私の英語を一所懸命受け止め、会話をして下さるホストマザーのおかげでとても楽しい日々を送ることができました。毎日美味しい料理を囲みながら日々あったことを話しました。そして、休日には地元のマーケットや観光名所、近くの島に連れて行ってくださいました。ホストシスターとも会話する機会もできました。また、学校生活の方もとても毎日楽しく過ごすことができました。初めて学校に行った日はとても大学が広がったので教室に行くのに苦労したことをよく覚えています。私のクラスは日本人が比較的多かったので、どのようにしたら多く英語を話す機会が増やせるか、などを日々考えながら行動していました。その中で私が実践したことは、誰よりも早くに授業中に発表するということです。授業の活性化にも繋がりましたし、先生やクラスメートにも顔と名前を早く覚えてもらえました。

そして、放課後のアクティビティでは大学の学生の方がシアトルの観光名所に連れて行ってくれます。そのアクティビティに参加することで色々な場所に行く機会が増えました。色々な人と接する機会も増えるため、様々な刺激も貰えました。

最後に、この3週間は長いようでとても短い3週間でした。この研修で出会った様々な大学や様々な国の友人から英語を学ぶ意欲の大切さや、自分の伸びしろなどを毎日学ぶことができました。また、この研修を有意義なものにするために考えながら過ごした日々や、拙い英語力を最大限に活かしながらコミュニケーションをとった日々は、自分の今後にとっても役立つと思います。

## ワシントン大学語学研修に参加して

看護学部1年  
女子学生

今回の語学研修は、三週間という短い期間だったが、本当に貴重な体験をすることができた。日本では、英語を聞く・話す力を伸ばす機会がなかなかないため、今回日常的に英語に触れることができ、より英語に興味を持った。

私は海外に行くこと自体が初めてで、自分から積極的に話していけるタイプでもないため、最初は本当に不安だった。しかしホストファミリーはとても親切で、「分からないことがあったら何でも言って。」と言ってくれたり話しかけてくれて、徐々に慣れていくことができた。学校では、初日にクラス分けテストをして自分のレベルにあった授業を受けることができ、学びやすかった。クラスのみんなども本当に楽しかった。午後は、ほとんど毎日クラスの人たちとシアトルを観光し、とても楽しかった。普段決して関わることのない他大学の人と知り合うことができ本当に良かったと思う。

今回の語学研修で、日本とアメリカの違いを身をもって感じることもできた。まず一つ目は、やはりアメリカ人はフレンドリーで親切だということである。私は休日、友人とプレミアムアウトレットという場所にバスで行こうとしていたが、どのバスに乗ればいいのか分からないでいた。すると、近くにいた人が声をかけてくれ、行き方を教えてくれた。その後も声をかけてくれた人が二人いて、プレミアムアウトレットに行くまでに三人の人が私たちを助けてくれた。日本人は誰かに質問をされたら親切に答えてあげるのが、困っていきそうな人に対して自分から進んで声をかけることは少ないのではないかなと思う。それに対して、アメリカ人は自分から声をかけて助けてあげることが多いと感じた。二つ目は、大学の近くで火事が起こった時のことである。消防士さんが歩道で『Fill the boots』と書かれた長靴を持っていて、私は初め何をしているのだろうと思っていた。よく見ていると、車で通りすぎる時にその長靴にお金をいれている人がいた。そこで、英語の意味が『お金で長靴を満たしてください』ということだと理解できた。このような寄付の仕方もあるのだと感じた。日本では見たことのない光景であったため、驚いた。

この語学研修では自分の英語力のなさを痛感させられることが何回もあった。相手の言っていることが聞き取れなかったり、自分の伝えたいことを思うように伝えられない時が多く、本当に相手にも申し訳ないという気持ちになった。もっと英語を話せるようになりたいと思った。英語ばかりを勉強することはできないが、大学卒業後ホストファミリーに会いに行った時には、成長した自分を見せられるように、より英語を学びたいと思う。



## ワシントン大学語学研修に参加して

経営学部 1 年  
女子学生

私がこのプログラムに申し込んだ理由は、長期留学を見据えての語学の向上でした。もともとビジネスコースが有名で優秀なワシントン大学は高校生の時から興味があり、入学して間もない頃にこのプログラムを見つけて、絶対に参加したいと思いました。

申し込みをしてからは準備に追われて大変でした。私の住民票が神戸にはないため、切れてしまったパスポートの更新をするべく地元に戻らなければならなかったり、大学の人たちと一斉に渡航するわけではないので、自分のフライトの手配からホームステイ先の決定、滞在期間の選択、何でも自分でやらなければならなかったからです。私は自分 1 人だけで海外に行ったことがなく、それも不安要素の 1 つでした。また、私は地元に戻省して、そこからそのまま成田空港に飛ぶ予定でしたが、大型台風の接近に伴い、出発の 2 日前に急遽夜行バスで東京へと向かうことになりました。困難の連続でしたが、なんとかアメリカへと降り立つことができました。

ホストファミリーはマザーだけでしたが、本当に親切な方で、「この人が私のホストファミリーでよかった！」と心から思いました。研修初日は、クラス分けテストがあり、15 分のライティングテスト、インタビュー形式のスピーキングテストがありました。1 番上のクラスになれましたが、みんながみんな英語が得意というわけではなく、お互いに助け合って、毎日楽しく授業を受けました。午後はフィールドトリップに参加して有意義な時間を過ごしました。知り合い 0 からのスタートでドキドキしていましたが、クラスメートたちに恵まれ、いい友達になれました。

今回の研修で得たものは、素晴らしい出会いです。ホストマザーに始まり、友達、シアトルに住むみなさん、素敵な人にたくさん出会うことができ嬉しいです。また自分自身の成長を感じることもできました。研修の準備を自分の力だけでできたという達成感、何か問題が起きたら、自分で対処する努力をするなど、大きく変わったと思います。でも、この研修に参加できたのは、快く了承してくれた家族や、保険の手配や大学とのやりとりをしていただいた国際交流機構のみなさまのおかげなので、心から感謝するとともに、更なる高みを目指して頑張っていきたいと思います。

## My experience studying in Seattle

環境人間学部 2年  
男子学生

For the past several years, I have been doing 2 things that makes me happy.

First one is to read much news about world event not just Japan. I talked with a lot of foreigners about the politics, sports and popular things in their countries. I often read news magazines and internet news, which enabled me to talk about such difficult topics. For example, I discussed Chinese policy and China's president Xi Jinping with Taiwanese, and I also conferred with Americans on immigrants and Donald Trump. These awesome events cannot be experienced without reading a great deal of news. We exchanged Twitter and Instagram accounts and talked a lot even after I returned to Japan. If I hardly knew about world news, I would never make many friends. So, in my opinion, not only studying English but also knowing many things will enable me to make foreign friends.

Second one is not to be afraid of making mistakes and talking with strangers. In my class, more than two thirds of classmates are Japanese, so we Japanese were regarded as the same by foreigners. I hated to be thought of as an ordinary Japanese person, so I dared to try something new with regards to Japanese behavior. I asked quite a few questions to my professor in my class. I came late to my classroom 1 to 3 minutes because all foreigners believe including my professor that Japanese are punctual, so I decided to upset my class during that time. I would like to show that I am quite different to other Japanese people. I wanted to show to everyone that I am far beyond the other Japanese, so I did everything to stand out. Consequently, I have come to be called "KING" by my classmates, professors and dorm friends. Having a strong personality, I got a quite few opportunities to use English in a conversation. I'm no longer ashamed that only after three weeks I can communicate better and proud to be back to my country. After all the embarrassing and painful experiences I had, it transformed in a beautiful outcome that finally I conquered my fears and nothing to be afraid speaking the English language. I don't need to be afraid speaking the language or having mistakes, because I know I can improve more and develop my communication skills.

In summary, I can say that it was a successful trip studying abroad even though I have a difficulty on the language. But in my conclusion, we should do anything regardless of the benefit and effect, it may help us in an unexpected situation. I will study much harder so I can study abroad again, and if you feel doubtful about whether you go studying abroad or not, you must go. I've learned a lot and I discovered that there's a lot of benefits if you will study hard. It will help us in many unexpected situation that might happen to our future. So if you feel doubtful whether you study or not, I suggest, you pursue your dream.

## ワシントン大学研修を終えて

環境学部 2 年  
男子学生

僕がこの研修を経て一番感じたことは、何事も自分の目で見て経験しないとわからないということです。この研修に参加した理由もそれで、調べた人の話を聞いて知ったようになるのではなく、自分はどう感じるのか知りたかったからです。文化が根本的に違う国での生活は、初めは辛くしんどい思いをしました。お店や施設では、まず想像以上に英語が聞き取れない、覚えていない単語が出てくるなど、話す以前の問題でした。簡単に意思を伝えて相手にくみ取ってもらうなどで乗り切っていました。次に、ホームステイ先や学校では比較的簡単な英語で、聞き取ることができ理解ができました。でも代わりに自分の意見や考えを表現しないといけなくなります。来てみるまでは、時間がかかっても考えたら喋れるだろうと考えていましたが、英語で聞いて理解し日本語で言いたいことが思い浮かんでそれを英語にする。これがいかに難しくこんなに英語が出てこないものなのだと、とても落胆しました。さらに英語が出てきても発音やイントネーションで伝わらないことが多々ありました。特に動詞の過去形で不規則変化する動詞はより伝わりづらく、r と l の発音で違う意味にとられることで会話がうまくいかないこともありました。

気になったことを登下校時や暇な時間に調べ、店員やこの STEP の教員、ホストファミリーに積極的にコミュニケーションをとり、さらに勉強不足を感じて・・・とこれを繰り返したことで分かったことは、日本でただ知識を蓄えて文章の問題やリスニングの問題を解いていても意味がないなということでした。たぶんどの人に言ってもそんなことは知っていると言われそうですが、実際に経験することで、英語を勉強するとはどういうことなのか自分で感じるができると思います。自分のこれからの勉強につながる貴重な経験になったと思います。

## ワシントン大学語学研修に参加して

経済学部1年  
女子学生

海外に留学に行く前は、とてもワクワクしていました。アメリカに行く前の準備期間も「アメリカに留学に行くんだな」という実感を毎日感じることで毎日を楽しかったです。

いざアメリカに行くと、自分の”ワクワク”した気持ちは覆されました。

環境の違い、文化の違い、言語の壁など様々なことを日々感じる事が出来ました。

私が1番苦労したことという、言語は当たり前でしたが、1番と言われると、ホストファミリーとのコミュニケーションでした。

私が今回なぜ寮ではなくホストしてもらったことを選んだのかという、学校で習う英語ではなく、日常生活の言葉、休日などもコミュニケーションをとることで英語が前よりよりよくできるのではないかと思ったからです。

でも、いざ一緒に生活してみると、毎日私のことをしてもらい、気を毎日遣ってもらい、そのことに対して完璧に英語で返すことが出来ないことがたまにありました。

そのことによって、毎日ホストファミリーに気を遣っていました。

「今日会うのが嫌だな」実際そう思ったこともありました。

でもそれは、せつかく留学に来ているのに逃げているだけだと思い、毎日、文法がグチャグチャであったとしても積極的に話しました。

プログラムが終わる前にはホストファミリーとも随分コミュニケーションも取れるようになれました。

あの時あそこでコミュニケーションをとることを怠っていたらなと思うと、絶対に今後悔していると思います。

今私は日本に帰ってきて、ご飯の美味しさ、環境の良さ、様々なことに幸せを感じる事が出来ています。このようなことを感じられたのは、今まで日本でご飯の美味しさや環境の良さなど、あたりまえのことだったので感じる事ができなかったからです。

やりたいこともたくさん増えました。

私はアメリカに留学に行くことができて本当に良かったと思っています。





## ワシントン大学語学研修に参加して

看護学部 2 年  
女子学生

今回、ワシントン大学の研修に参加して最も印象に残ったことは、1 つ目に言葉の壁である。学校で出会った外国の友達や先生、ホームステイ先のホストファミリー、お店の店員さんや町の人などアメリカでは多くの素晴らしい出会いがあった。その人たちに、自分の考えを説明したり、要望を伝えたり、自分の中では言いたいことがたくさんあるのに、英語で伝えることが難しく、日本語で話すときの何倍もの時間と労力がかかった。しかし、やはり英語はたくさんの人種や文化の人々がそれぞれの母国語に加えて使っていることを改めて感じた。英語を使うことで、一気にコミュニケーションをとることのできる人が増え、世界が広がるなと思った。

また、学校生活やホームステイは難しいなと感じたこともあったが、楽しいことがたくさんあった。学校は朝が早く、また初めのうちは正しいバスに乗れるかとても不安だったが、毎日休まず学校に行くことができた。自分のレベルにあったクラスで授業を受けることができ、また、クラスの友達とコミュニケーションをとりながら授業を行うため、積極的に英語を話すことができ、何より 3 週間という短い期間だったが、かけがえない友達がたくさんできたことは大きな収穫だった。

週末は友達とダウンタウンで買い物をしたり、シアトルマリナーズの試合を観戦したりした。パイクプレイスマーケットのにぎやかな雰囲気とカラフルでみたことのないような大きさの野菜や魚は特に印象的だった。そして、初めて海外で英語の映画を見た。確かに何を言っているかは正確にわからないが 4dx でみたため迫力がすごく、また日本の映画館と違いお客さんが自由に笑ったり驚いたりしており、さすが自由の国だなと感じた。ホームステイ先ではアメリカの日常生活を肌で感じることもできた。特に食事の面では少しカルチャーショックを感じた。日本の料理とは、量や味付けが全く異なっており、1 週間で日本食が恋しくなってしまった。ホストマザーは私の英語を一生懸命理解してくれようとしてくれてとても過ごしやすかった。

この研修では、英語はもちろん海外で生活するとはどのようなことかについても学ぶことができる。ワシントン州はアメリカの中では治安のよい街だと聞いていたが、ダウンタウンに行くとは日本では見たこともないような光景がたくさんあった。また、買い物や食事の際のチップ制度など難しいと感じることもたくさんあった。英語だけでなく暮らしの知恵のようなものも事前に学んでおくべきだと感じた。

この研修を通して、やはり英語力をもっと向上させたいと思った。英語ができればもっとたくさんの人と話せ、たくさん場所へ行けると思う。これからさらに英語を勉強しもう一度アメリカを訪れたいと思う。